



写真：ヒカゲノカズラ（撮影：令和4年12月31日）

「ヒカゲノカズラ」

ヒカゲノカズラ *Lycopodium clavatum* ヒカゲノカズラ科 ヒカゲノカズラ属

古くから利用された植物

標

高1200mのえびの高原。寒さしのぎで落葉する植物

が多い中、一年を通して葉をつけている植物もあります。地表を這い、独特の姿をするヒカゲノカズラもその一つです。漢字では、「日影（陰）の葛」。その名の通り日陰に発生することもあります。日なたの斜面でも多く見られます。特に池めぐり自然探勝路では群生し、一面を覆っている箇所もあります。シダ植物の仲間、花は咲きませんが、夏に胞子のつまつた穂をつけます。触れると胞子が風により、波を打つように舞い散ります。この胞子を人工授粉の花粉に混ぜたり、線香花火の火薬に混ぜたりして、増量剤として利用されています。他にも、料理の飾りや祭事に使うなど、古くから人々と関わりのある植物のようです。

えびの高原では、いたる所で見られますが、注目されることが少ないヒカゲノカズラ。じっくり見ると、一つ一つの葉の細やかさや美しさを見て取れます。装飾に使われた歴史も頷ける造形美です。

（文）えびのエコミュージアムセンター